

# 会議の概要

## 令和5年度 第9回 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会  
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会  
○ 大玉中学校学校運営協議会 ○ 大玉村地域学校協働本部 第3回地域教育協議会

日時：令和6年2月26日（月）18:30～20:40

場所：改善センター1階 多目的ホール

（ 進行 指導主事 渡邊 博樹 ）

### 1 開会のことば （ おおたま学園CS委員会副会長 館下 愛理 ）

皆さん、こんばんは。これより令和5年度第9回コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）と略記）を始めます。よろしくお願いいたします。

### 2 教育長あいさつ （ 大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘 ）

皆さん、こんばんは。本日もお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

去る2月17日（土）に行われました第5回コミュニティ広場は、委員の皆様のご尽力によって初期の目的を十分に達成することができたと考えております。また、学校関係者評価に関しましても、各幼稚園・学校に寄り添いながら、今後につながる様々なご意見をいただけたと思っております。大変お世話になりました。

さて、今回は今年度最後のCS委員会であります。なお、第3回の地域教育協議会も兼ねて開催させていただきます。各幼稚園・学校の令和6年度の運営方針の承認を始め、内容が多くなってありますがよろしくお願いいたします。限られた時間の中で重要な案件が多いということもありますので、効率のよい運営にご協力いただければと思います。しかしながら、そんな中でも「これだけは言っておきたい」、「これは考える必要がある」等については遠慮なく出していただきたいと思います。

今年度の委員会としての活動は本日で最後ということになりますが、皆さんの任期はあと1年ございます。次年度につきましても、引き続き幼稚園・学校の応援団としてご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。本日はよろしくお願いいたします。



### 3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （ CS委員会会長 矢吹 吉信 ）

皆さん、改めましておぼんでございます。本日もお忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。

2月17日のコミュニティ広場に関しましては、皆様に絶大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。皆さんのお陰で成功裏に終了できたのではないかと考えております。

短時間ではあったのですが、先程アンケートの集計結果にざっと目を通しました。当日の主催者あいさつでも述べたのですが、第2部のSNSのテーマでどんな意見が出るのだろうと不安でしたが、今回は思ったよりもいい評価をいただけたと捉えております。ただ、改善する点もあると思いますので、今日の協議の中で出していただいて、次年度に生かしていきたいと考えております。

本日も非常に内容が濃い委員会となっております。慎重なるご審議をよろしくお願いいたします。

#### 4 諸連絡 本日の日程・内容について

( 指導主事 渡邊 博樹 )

< 5つの協議内容について >

- (1) 令和6年度各校園の経営・運営の方針等について
- (2) 令和6年度おおたま学園CS委員会の運営について  
今年度の反省、来年度の計画について説明する。それを踏まえて意見交換をする。
- (3) 令和5年度第3回地域教育協議会 「第2回地域教育協議会評価・検証のまとめについて」
- (4) 第5回おおたまコミュニティ広場アンケート結果から
- (5) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について

#### 5 協議

( 座長 CS委員会副会長 浅和 博栄 )

- (1) 令和6年度各校園の経営・運営の方針等について (要点を抜粋)

##### ① 学校関係者評価委員会について (学校関係者評価委員長より)

(座長) 暫時座長ということで司会を務めさせていただきます。

それでは、「(1) 令和6年度各校園の経営・運営の方針等について」より始めます。まずは、大玉中学校担当の評価委員長さんから令和5年度学校関係者評価の報告をお願いします。

##### 【大玉中学校】

( CS副会長 浅和 博栄 )

○ 重点目標の評価について (下記ア～オについて)

ア 学校経営の基本方針【教職員が一丸となって計画的・組織的に取り組む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ B

イ 自学：意欲をもって学ぶ生徒【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ウ 共栄：認め合い高め合う生徒【地域や社会とつなぎ、多様な人々の心の交流を通して、豊かな人間性を育む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

エ 自鍛：自ら心身を鍛える生徒【健康的な生活習慣の確立に向けた健康マネジメント力の育成と体力向上に取り組む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ B

オ 地域と共に歩む学校づくり【社会に開かれた教育課程の実現と共に歩む学校づくりに取り組む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

##### < 全体意見として >

- 新型コロナが第5類移行となり、今まで制限されていた活動も通常に戻りつつある。教職員の対応や負担も増えてくると思われるが、やらされ感ゼロで一緒に楽しめるような学校活動にしていきたい。
- 自主学習については一方的に宿題として課しても難しいと思われる。家庭学習や自主学習の取組は小さい時からの習慣化が重要であり、幼・小・中一貫の取組ができるおおたま学園の強みを生かすところではないか。情報共有や連携強化、そして一貫・継続した具体的な共通の取組を実践していく必要がある。
- ふるさとへの貢献活動がとても素晴らしい。「おおたまプライド」や「自己有用感の向上」にもつながると思われることから、今後も継続をお願いしたい。
- 学校と家庭の連携を図るために努力されていることに感謝している。限界もあると思われるので、外部との連携をとることを検討していくこともよい。
- 「基本的な生活習慣」で家庭を動かすことはかなり困難であり、不可能に近いと思われる。家庭訪問も形式的になっており、昔のように学校での子どもたちの生活状況を伝えたり、逆に家庭での子どもたちの生活を聞いたりして直接指導する機会も時間もなくなっている。学校と家庭がどう向き合い、どのようにしていくのか検討していく必要がある。
- おおたま学園は他にはない素晴らしい取組であるので、一貫・継続した具体的な取組を決めて今



すぐにでもできることから実践していくことが必要である。

- おおたま学園の先生方の負担分散も考慮しながら、そして先生方の成長にもつながり一緒に楽しめるような内容にしていく必要がある。
- 学校による自己評価及び改善に向けた取組については概ね適切であり、改善策についても効果が期待できる内容である。先生方の働き方改革による効果的な時間の活用も考慮しながら、各取組内容への理解を深め、より充実させていただきたい。

### 【大山小学校】

( CS会長 矢吹 吉信 )

- 重点目標の評価について

3つの重点目標としてあげられている下記の項目の達成状況、及び取り組みの適切さについて説明する。詳しくは評価報告書をご覧ください。

- ア 進んで学習する子の育成（「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり、学びを支える学習基盤づくり）

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

- イ なかよく助け合う子の育成（道徳教育充実、生徒指導の充実、体験活動の充実）

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

- ウ 健やかでたくましい子の育成（やり抜く心の育成、健康・安全教育の充実）

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ B

### < 全体意見として >

- 今後も誰一人取り残さず、全ての児童の学びを保障してほしい。そして、小学校で「読む」、「書く」、「聞く」の基礎力を定着させていただきたい。
- 例年課題にあがっていたが、読書の取組が軌道に乗ってきている。新しい書籍も計画的に配架する等継続・発展させることによって、さらに児童の読書意欲を高めていただきたい。
- 学校はいじめや不登校の理由について把握しており、評価関係者委員としても安心感がある。今後も児童の話をよく聞く姿勢を継続し、未然防止に全力を尽くしていただきたい。
- 地域素材の活用により、児童が他者と関わる場面を生み出している。人間関係を上手に築けない児童が増加している現状からも、家庭と連携しながら指導を継続していただきたい。
- 「夢に向かってがんばる子」という教育目標は、本校児童の目指すべき姿である。これからも続けていただきたい。
- 基本的な生活習慣やしつけ、メディアの利用は本来家庭で指導することである。児童の自己マネジメント力を高めるよう、学校は家庭と協力・連携しながら指導していただきたい。
- 150周年の記念すべき年に、校長がリーダーシップを十分に発揮し教職員が一丸となっていた。
- 児童数の増加に伴う体育館の拡張や、施設老朽化によるプールの改修等、児童のよりよい学びに向けた学習環境整備をぜひとも要望したい。
- 授業は学校教育の根幹である。現状では人手が足りないように見受けられた。教員が授業に集中できるように、ゆとりのある人員配置を要望したい。

### 【玉井小学校】

( CS委員 後藤 吉美 )

- 重点目標の評価について（下記ア～ウについて）

- ア 自ら学ぶ子ども（主体的に学び、学んだことを活用できる子ども）

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

- イ 心豊かな子ども（自分や人、ふるさとを大切にできる子ども）

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

- ウ たくましい子ども（自分や人、ふるさとを大切にできる子ども）

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

### < 全体意見として >

- 児童と保護者間の「学習」に関するアンケート結果に差はあるようだが、児童が「学習に取り組んでいる」という結果そのものを褒めてあげることが大事ではないかと感じた。家庭でも学校でも「褒める」ことを心がけていく等、具体的な手立てにより差異が生じている部分の解消に向けて引き続き取り組んでほしい。
- 「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える道徳科の充実」について、子どもたちの意識は上がってきているが、指導する教職員の評価との差があるので、引き続き力を入れて取り組んでほしい。

- あいさつについては、昨年と比較して保護者の高評価の割合が減少しているという結果であったが、児童との関わりをもつ大人がまず挨拶を心がけていくことが大切だと感じた。それによって、児童はさらに自然に挨拶ができるようになると思う。(大人の振るまいが児童たちにより影響を与える)
- 体育科の授業において、めあてを明確にして取り組むことで、身体作りや体力向上につながっているのだと考える。コロナ禍が明け、運動に係る取組の評価が上がることを期待したが、まだ伸び悩んでいる様子が見られるので、今後も継続して取り組み、たくましい子どもの育成をお願いしたい。
- 朝ごはんの必要性や大切さについては、児童も保護者も認識していると感じた。児童だけでなく、親子で一緒に食育を学ぶ機会を設定する等して、意識の向上を図るよう指導をお願いしたい。
- 今年度はコロナ禍が明け、玉井小学校150周年記念式典が行われたりして、変化の激しい大変な年度であった。そのような中、子どもたちが積極的に学んだり活動したりできたのも、先生方の熱心な指導及び保護者や地域の皆様のご協力のお陰であると考えます。また、アンケートの集計結果によると、ほとんどの児童は楽しく学校生活を過ごしており、自己肯定感も上がっていると捉えられる。今後も子どもたち全員が前向きな回答ができるよう、さらなる指導に取り組んでいただきたい。



**【 大山幼稚園 】 ( CS委員 佐藤 史江 )**

○ 重点目標の評価について (下記ア～ウについて)

ア 進んで遊ぶ子ども (自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

イ なかよく遊ぶ子 (身近な人とかかわろうとする子の育成)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ウ 元気に遊ぶ子 (心も体も健康な子の育成)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

**< 全体意見として >**

- 職員室前の絵本コーナーを常時開放し、絵本や物語に親しむ工夫をしていることが素晴らしい。人気のある絵本は破損がひどいものもあった。園内だけで補修することはなかなか難しいので、ボランティアや学校司書の協力を得たり、保護者に補修の仕方を知らせたりすることで、ちょっとした破損なら家庭でも親子で直し、物を大切に作る気持ちにもつなげていってほしい。
- 学年毎の玄関等で、写真や教師の思いや幼児のつぶやき等を紹介している取組は分かりやすく大変効果的である。(保護者に遊びの様子を伝える方法として) 今後も継続してほしい。
- あいさつ運動はとてもよい取組である。「ありがとう」、「ごめんなさい」が自然に言える子どもになってほしい。そのためには、まずは大人が手本を示すことが大切である。
- 遊びに取り入れられそうな草花を栽培することは、遊びの中で試したり工夫したりしながら、遊びに没頭するためにもとてもよいと思う。
- 安全教育、スクールバスのクラクション訓練、避難訓練等が定期的実施され、安全管理もきちんとできている。
- 食育は今後も積極的に取り組んでほしい。(特に調理体験)
- 縦割りでお弁当を食べる等の活動を取り入れてみてはどうか。箸の使い方や苦手な物を食べる姿、片付け方等も自然とお互いに意識し合えると思う。
- (帰りのお迎えを待つ際) 夕方暗い中で遊んでいる子どもたちがいるので、もう少し明るい街灯があればいいと思う。
- 小学校のプールで遊ぶ際、水着姿の園児が見えるのが心配である。外からプール遊びの様子が見えないように配慮した方がよい。
- 月に一度でいいのでお弁当なしでおにぎりだけの日にする等保護者の負担を軽減してはどうか。今後お弁当の意義も考慮しつつ、保護者の意見を反映していく必要がある。

## 【玉井幼稚園】

(CS委員 麻生 希美)

### ○ 重点目標の評価について

3つの重点目標としてあげられている下記の項目の達成状況、及び取組の適切さについていずれもAとした。詳しくは評価報告書をご覧ください。

#### ア 自分で考え、進んで行動できる子ども

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

#### イ 友達と仲良くできる子ども

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

#### ウ 目標に向かって挑戦できる子ども

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

### < 全体意見として >

- 幼児個々に応じた声かけや支援を丁寧に行っていることが、子どもの心の安定と自ら考え行動する姿につながっている。また、担任だけでなく園全体でカンファレンスを行っている結果が子どもたちの意欲に表れている。
- 個別懇談による保護者との情報共有の機会を年2回に増やし、園と家庭が一体となって子どもの支援をしている。その環境づくりに発展が見られた。
- 課題となっている「あいさつ」については、園では雰囲気作りに取り組んでいるので、登園時等周りの大人にも実践していただきたい。
- 野菜の栽培、収穫、調理、食べる一連の体験を通し、食の大切さを伝えている。今後も感染症に留意しながら楽しむ食育に取り組んでほしい。
- 毎日の遊びを通して、楽しみながら運動ができるよう積極的にボランティアの協力を呼びかけてはどうか。
- 参観や熟議を通して、日頃より玉井幼稚園の先生方がいかに子どもたちを思い、工夫しているかが伝わってきた。アンケートの集計結果を見ても、保護者からの信頼が厚いことが伺える。これは短期間に築けるものではなく、毎日の努力と愛情が表れているものだと思う。
- 大玉村の地域と学校園の関わりは、小さな村ならではのよさであり、素直で思いやりのある素敵な人が多いと感じる。幼稚園・学校・教育機関、それを支える大人たちが丁寧に子どもたちと向き合っている結果と考える。
- 地域のサロンと交流したり、多くのふれあいが作れるようなサポートをしたい。

(座長) 各校園の評価委員長さん本当にありがとうございました。

それでは、続いて「令和6年度各校園の経営・運営の方針説明」に移ります。大玉中学校よりお願いします。

## ② 令和6年度各校園の経営・運営の方針説明(各校・園より)

【資料：各校・園 令和6年度学校運営の方針(学校運営ビジョン)】

### 【大玉中学校】

(校長 久保寺 徹)

#### ○ 教育目標と“目指す生徒像”は継続する。

##### <変更した点について>

#### ○ “目指す学校像”を明らかにした。

「楽しい学校」＝ わかる・できる授業をベースに、魅力と必要性の高い学校で、生徒が楽し  
いと感じ、教職員がやりがいを感じられる学校  
→ 1日の大半を占める授業を魅力あるものにする。

#### ○ 学校経営の基本方針

◆自ら進んで行動できる生徒の育成 → 自主自律・自己マネジメント力

◆考えることを重視した教育 → Thinking Time

○生活ノート：次年度はスケジュール帳のような形に変更

→ 先を見越して、自分がやっていきたいことを考えさせながら、毎日の生活を送らせる。

◆生徒自身がつまみ良さを見つけ、それを伸ばす教育 → 多様性への対応

○自己有用感を高める。自分自身のよさを本人に見つけさせるようにし、それを伸ばす。

◆大玉村、大玉中のよさを実感させ、所属感を高めることで、何事にも自信をもって行動できる生徒の育成 → 大玉プライド

○「大玉プライド」という言葉は大玉中の活気をみなぎらせるキーワード。何事にも自信をもって行動できるようにする。

- <生徒の願い><保護者の願い>は、学校評価のアンケート結果を受けて設定
- <学び続ける教師>を<教師の覚悟>と変更
- 重点事項を「知」「徳」「体」「絆」と表記
  - ・より数値目標を出せるような取組をしていきたい。

### 【大山小学校】

(校長 齋藤 和久)

- 教育構想については変わらない。
- 「常に前向き」、「失敗したらばん回」を合い言葉に、全教育活動を通した「基礎的・汎用的能力」、「非認知能力」の育成
  - ・「決して追い詰めず、逃げ道をつくっておく指導」に心がけ、子どもたちが「もっと頑張るぞ!」と思えるような支援の仕方を進めていく。
- 重点事項(3本柱)について
  - ・大山小は、「徳」・「体」・「知」の順番で記している。心と体が安定して健やかであれば、自分から学ぼうという気持ちは育つと信じて、まずは心の教育に重点的に取り組んでいる。

#### 「なかよく助け合う子」(進んで「ひと・もの・こと」に関わりながら互いの人権を尊重する心を育てる)

- 心に寄り添う教育の充実
  - ・あいさつ運動の質を向上させ、「されて嬉しい」から「して嬉しい」への転換<継続>
  - ・行動等を通して子どものよさを伸ばし、教育活動全体を通して道徳性を育成
    - 挑戦する心を育てながら人との関わりを充実させる
- SDGsを踏まえた体験活動・交流活動の充実
  - ・ゼロカーボン宣言を意識して委員会活動や係活動に取り組めるようにする。
    - 進学や就職で大玉村を出た後も、世界のどこに行ってもその意識をもった人間になってほしいという願い

#### 「健やかでたくましい子」(健康で安全な生活ができるようたくましい心身を育てる)

- やり抜く心の育成
  - ・次年度一番力を入れるということで全教職員で確認
  - ・粘り強さの育成を目指して、熱中できるような体育授業を展開する。子どもたちが、「諦めないで、絶対にこの記録を突破するぞ!」等自分の中で目標を掲げて取り組めるような授業を考えていく。
- 健康・安全教育の充実
  - ・基礎的な生活習慣の見直し・確立がしっかりとできるようにしたい。(当たり前のことを当たり前に)「情報モラル診断」や「朝食を見直そう週間」等は、家庭の協力が必要なところであるので、連携し取り組んでいきたい。
  - ・防災意識を高めていくため「防災教育」を加えた。

#### 「進んで学習する子」(自ら考えともに学び育つ子どもを育てる)

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり
  - ・粘り強さにつながるよう、達成感や充実感を得られる成功や失敗体験の積み重ねを大事にしていく。成功体験だけでなく、失敗体験も必ず子どもたちの力を伸ばすのに必要な部分であるので、そういったことを授業の中で経験できるように、先生方には授業構想を考えてもらいたいと思っている。
- 学びを支える学習基盤づくり
  - ・学校評価の中でも、読書活動が充実してきたと評価いただいた。学校司書の関わりが大きい部分があるので、「本の素晴らしさを味わってほしい」という司書の思いと担任の先生方の思いをマッチングさせながら授業に取り入れるようにする。
  - ・「デジタルシチズンシップ教育」の推進
  - ・社会に貢献できるような資質を向上させる。

### 【玉井小学校】

(校長 佐藤 則之)

- 教育目標は今年度と同様
- 令和6年…今年の漢字は「楽」
  - ・保護者の望みを表したもの(アンケートによる) → 令和5年は「挑」。子どもたちには、機会ある毎に「挑む」ということを話し、意識づけて成長につなげていけるようにと努力した。
  - ・「何事も楽しむ心を持ち、取り組もう」…楽しいから頑張れる。楽しいから続けられる。

何事にも楽しみを見つけて行動したい。何事も楽しみながら！

- ・ 「どうやったら周りの人を楽しませることができるのか」という他者意識も育てたい。
- 基盤として
  - ・ 児童相互並びに児童と教師の信頼関係づくり
  - ・ 望ましい学級のルールやマナーの共有<指導から共有へ>

○ 重点事項について

「自ら学ぶ子ども」(主体的に学び、学んだことを活用できる子ども)

○ 基礎的な学力の向上

- ・ 「自己マネジメントカード」… 毎週木曜日の昼休み後のチャレンジタイム(15分間)を使って全学年で取り組む。(学習の振り返り、これから1週間どんな勉強をするか計画を立てる)  
→ 自分の生活スケジュールをもとに考える子が増えた。(ex.土曜・日曜にスポ少があるのでその他の日に学習に力を入れる等)

- ・ 小学生のうちにこういうことを積み重ねていくことによって、中学生になった時には自分で考えて学んでいく子に育つのではないかと考えている。

- ・ 1学年からその子の状況に応じて教師が支援しながら計画を立てさせるようにしている。

○ 子どもの学びを深める授業づくり

- ・ 子どもが学ぶ必要感を感じるような学習活動をつくる。

○ 実践力の向上を図るための体験的学習の充実

- ・ 地域の自然や施設・人財・伝統文化等を効果的に活用し、大玉村のよさを実感できるような教育活動をつくっていく。



「心豊かな子ども」(自分や人、ふるさとを大切にできる子ども)

- ・ 自分の1週間の生活を振り返る時間をつくる。(チャレンジタイム)
- ・ 「自己決定の場と活躍の場の意図の設定による自己有用感の体感」がキーワード  
→ 学校行事(運動会、学習発表会 etc.)に子どもが参画

「たくましい子ども」(自分の体に関心をもち、体力向上に努める子ども)

- ・ 能登の震災をを目の当たりにして、改めて自然災害にどんなふうに対応するべきか見直す機会になった。  
→ 核になるものを考え実施していく。

【大山幼稚園】

(副園長 二瓶 博子)

○ 教育目標は大山小学校と同様

○ 重点目標も大山小と同様

- ・ 大山小と同じように人との関わり、コミュニケーション能力を育てることに力を入れる。  
子ども一人一人に寄り添いながら、目指す幼児像を実現できるよう保育に努めていく。

○ 重点事項について

「なかよく遊ぶ子」(身近な人とかかわろうとする子の育成)

○ 社会性を学んでいく場の設定

- ・ 思いやりの心、あいさつ等に引き続き力を入れていく。

○ 豊かな体験活動の充実

- ・ 「架け橋期のカリキュラムの工夫・改善」を付け加えた。

→ (今までも行ってきたが、)特に幼・小接続の部分を今までと同様と捉えるのではなく、もう一歩踏み込んでいくことで、どのようにつなげていくことが子どもたちにとってふさわしいのか、幼児期にどのような力をつけさせていかなければならないかについて考え実践していく。

「元気に遊ぶ子」(心も体も健康な子の育成)

- ・ 今年度コロナは明けたが、いろいろな感染症(インフルエンザ、溶連菌、プール熱 etc.)が

流行した。今後もあるかもしれない。柔軟な考え方で予防対策を行うと共に免疫を強化するために健康な体づくりを重視し、安全な園生活を送れるようにする。

#### 「進んで遊ぶ子」(自ら進んで意欲的に遊ぶ子の育成)

- 主体的・対話的に活動する力の育成
  - ・ 「直接的な体験(自然体験)の充実」を加えた。… 「なかよく遊ぶ子 ②豊かな体験活動の充実」からこちらに移動。子どもたちの直接的体験から学ぶことが多いという原点に帰る。
  - 年長組の保護者に年に一度は園に来てもらって(保育等の)手伝いをしている。その中で自分の子どもや友だち、周りの子どもたちの様子や幼稚園の様子等を観てもらって、個別に悩みを聞いたりした。とてもよい機会になった。次年度は大山幼稚園も個別懇談を年2度にし、親育てにもつなげていくようにしたい。
  - 保護者を巻き込んで、子どもと一緒に活動することでよりよい方向に伸ばしていけるようにする。また、保護者も生き生きと楽しく子育てができるように、幼稚園は子どもと保護者両方を変えていけるような存在になりたいと考えている。

#### 【玉井幼稚園】

(副園長 後藤 弥和子)

- 教育目標は玉井小学校と同じ
- めざす教師の姿… 3つ目に「同僚」を加えた。
- 玉井小の今年の漢字は「楽」になった。幼稚園のテーマも「楽しく遊ぶ」、「五感を使って遊ぶ」であるので、小学校と意識を同様にしていきたい。
- 村の重点… 「思考力の芽生え」、「言葉による伝え合い」、「道徳性・規範意識の芽生え」
- 園全体で同じ方向性で保育に取り組む。
- 重点目標について

#### 「自ら考える子ども」(自ら考え、進んで行動できる子ども)

- 主体的に活動する意欲の育成
  - ・ 一人一人のよさや可能性を認め、成長を見守ることが大事であるので、「成長を認め、個に応じた支援の工夫」を掲げた。
  - ・ 「五感(見る・聞く・さわる・嗅ぐ・味わう)を使った遊びの工夫」をクローズアップ
  - 教師自身が、(意識して)工夫をしながら、いろんな遊びをすすめていく。(ex.どろ遊び、水遊び、自然物を使った遊び、クッキング、小麦粘土等。)
- 遊びを創造しようとする意欲の育成
  - ・ 考えたり、分かったりすること(見付ける・比べる・例える・試す・工夫する)、楽しさや喜びを十分に体験できる活動の工夫
  - その幼児が行っている活動を見取り、周りの幼児に広げたり工夫したりする。
  - ・ 「最後まで話を聞く・自分の思いや考えを伝え合う活動」と具体的に表記した。

#### 「心豊かな子ども」(友達と仲良くできる子ども)

- 思いやりの心の育成
  - ・ 発達段階に応じて、友達と協力して活動することの楽しさを味わえるような援助の工夫
  - ・ 発達段階に応じて、お互いに考えを出し合う中で、多様な気付きを促していけるようにする。
  - ・ いろいろな考えがあることを受け入れ、相手を思いやれるようにする。
  - ・ あいさつについては家庭との連携を図っていく。
- 豊かな体験活動の充実
  - ・ 幼・小交流、異学年交流のペア活動等で大きなものが得られる。効果的であるので、来年度も引き続き取り組んでいく。
  - ・ 地域の方々の協力をいただきながら、自然体験を進める。

#### 「たくましい子ども」(目標に向かって挑戦できる子ども)

- 自ら身体を動かして遊ぼうとする意欲の育成
  - ・ 最後まであきらめないで活動に取り組む心の育成
  - ・ 運動量を確保できるよう時間と場を確保し、『幼児期運動指針』を意識した遊びを工夫する。
- 健康で安全な生活をする力の育成
  - ・ 関係機関との連携による生命を守る指導及び訓練
  - ・ 基本的生活習慣の定着への啓発
  - 家庭と一緒に取り組んでいく。  
“スプーン、はしの使い方”を加えた。  
「メディアコントロール」を「メディアとの正しい関わり方」へ変更。

### ③ 意見交換 → 承認

(座長) 各校園の次年度の経営・運営ビジョンの説明がありました。意見交換に移らせていただきたいと思います。皆さんから何か感じたこと等あればお願いします。

(麻生委員) 大玉中について感じたことがあったのでお話しします。

ある講習会に参加した時に、教育コンサルタントから「目的と手段」ということで講話があり、とても分かりやすい内容だと思って聴いていました。その時に私の頭の中に浮かんできたのが、去年の中学校の先生とのやりとりです。もちろん、大玉中学校の先生方は、日頃からきちんと厳しく指導されていると思うのですが、子どもが、「頭ごなしに言われた」とか「先生が言っていることは矛盾している」という気持ちで家に帰ってきたことも結構多くありました。先生自身に矛盾があると、信頼関係が崩れてしまうのではないかと心配になりました。

先生にとっても楽しい学校になるように、プロ意識を育成することは大事だと思いますし、目的と手段がごっちゃになって厳しくなりすぎないように心配りをしてもらおうと嬉しいなと思いました。

(座長) 貴重なご意見ありがとうございます。その他ございますか。ないようでしたら、これで意見交換については閉じさせていただいて、続きまして承認手続きに移ります。承認される方、拍手をお願いします。

<拍手多数>

(座長) 承認ありがとうございます。それでは、ここで5分間休憩とします。

～ 休 憩 ～

(座長) それでは皆さんお揃いですので、「(2)の令和6年度おおたま学園CS委員会の運営について」に移ります。事務局より説明をお願いします。

## (2) 令和6年度おおたま学園CS委員会の運営について (指導主事 渡邊 博樹)

### ① 令和5年度おおたま学園CS委員会を振り返って

以下資料に基づき説明…主なものだけをまとめて下記に列挙

<成果>

- CS委員に入って、「保護者」からは見えない様々な課題があり、先生方の工夫も知った。「学校(先生)と保護者の橋渡し」として、もっと分かりやすく発信していかなければならない。
- メンバーが変わって新たな発見があった。コミュニティ広場のもち方について、「ワールドカフェ形式では難しい」、「分かりづらい」といった意見が出て方向性を修正できたことは意義深い。マンネリや分かるはずだといった固定観念をくつがえして、その時のメンバーがよいと思ったことをしていけばいい。
- (学校運営協議会に) 昨年までもたくさんの先生方や生徒さんが参加してくださっていたが、「今年や今後さらにもっとたくさんの方に参加していただけるようにするにはどうしたらよいか」等を話し合う機会が多かった。報告等だけではなく、より良いものにするための協議がされていた。

<課題>

- △ CSの会議の中で意見が出たり、話し合いに出されたりした内容について、なかなか改善という方向にいかなかったものなどがあり残念に思う。せっかくの意見をそれぞれの学校で受け止めてもらえば話し合ったかがあると思うが…。
- △ CS委員会の存在や活動をもっとアピールしたい。保護者や地域の方に届いていないのではないかと感じている。興味のない方にも振り向いてもらえるようなアピールが必要ではないか。(ex.学校の参観日などに合わせて、CS委員も一緒に出向いてイベント活動の内容やアンケート結果を伝える等)
- △ CS委員会の情報にふれやすい村内の環境づくりが望ましいのではないか。CS委員会や各学校の子どもたちを思う気持ちや活動の素晴らしさを村の人にも伝えていけたら、協力体制の強化や先生方の負担軽減にもつながるのではないかと思う。発信に関して外部にもオープンにしていけたらいい。

<その他>

- オープンスクールに保護者や地域住民も参加できるようにしたい。場所のスペース等の課題はあるが、興味のある方はいると思うし、今後の立役者となる方もいると考えている。
- 学校の参観日に小さい子どもを気軽に預けられる場所があればいいと思う。(下の子を預けてゆっくり参観できる工夫)

- 村民に知名度が低い委員会なので、どんどんアウトリーチをする必要があるのではないか？解ってもらうことで得られる協力ほど強い支えはないと思う。

② 基本方針（案）年間計画（案）の説明 ※ 修正点のみ記載 ～他は省略～

- オープンスクール（おおたま学園主催の授業研究会）に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。熟議においては可能な限り子どもたちの意見も取り入れたり、**保護者を参加させたりするなど**、子ども理解・学校理解・**家庭理解**のより一層の深まりとともに、子ども、学校、家庭、地域の協議の活性化をを目指す。

令和5年度の活動実績と令和6年度の計画（案）

令和5年度（実績）		令和6年度（案）
月	日	会議・主な活動
5	10	第1回CS委員会 ・委員任命・学校関係者評価委員委嘱 ・地域教育協議会委員委嘱 ・年間計画（CS委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ～小グループによる熟議～ ・各校園が重点的に取り組むこと、お願いしたいこと
5	26	第1回CS委員会役員会 ・おおたま・オータム・フェスタ事前打合せ ・学校評価についてのCS委員研修会の内容検討
6	14	第2回CS委員会（玉井幼・玉井小学校運営協議会）※オープンスクール実施
6	14	6/14(金)おおたま学園交流会(仮・幼)スポーツ交流イベント運営・参画 6/25(火)第2回CS委員会（玉井幼稚園・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施
7	5	第3回CS委員会 ～小グループによる熟議～ ・おおたま・オータム・フェスタの実施計画について（教職員・CS委員との合同会議） ・テーマ…各校園毎に設定し熟議
7	27	おおたま学園全体会 ・各委員会 ・おおたま・オータム・フェスタに向けた教職員・教育委員会職員の打合せ ・教育講演会
7	27	8/27(水)第3回CS委員会 ～小グループによる熟議～ ・おおたま学園交流会(仮)の実施計画について（教職員・CS委員との合同会議） ・テーマ「未定」
9	19	第4回CS委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施
9	18	9/18(火)第4回CS委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施
10	1	おおたま・オータム・フェスタ（小・中）運営・参画 10/13(金)おおたま・オータム・フェスタ（幼）運営・参画
10	1	おおたま学園交流会(仮・小中)運営・参画 9/27(金)大名倉山登山、安達太良山登山 9/30(月)オリエンテーリング 10/3(木)昔遊び・グラウンドゴルフ 10/11(金)ミニ運動会
10	4	第5回CS委員会 ・全国学力・学習状況調査結果、ふくしま学力調査結果の概要説明 ～小グループによる熟議～ ・2023 おおたま・オータム・フェスタの反省
10	17	10/17(木)第5回CS委員会 ・全国学力・学習状況調査結果、ふくしま学力調査結果の概要説明 ～小グループによる熟議～ ・2024 おおたま学園交流会(仮)の反省

1 1	1 7	第 6 回 C S 委員会 (大山幼稚園・小学校運営協議会) ※オープンスクール実施	11/22(金)第 6 回 C S 委員会 (大山幼稚園・小学校運営協議会) ※オープンスクール実施
1 2	1 2	第 7 回 C S 委員会 ・おおたま・オータム・フェスタアンケート結果報告について ・おおたまコミュニティ広場の内容について～小グループによる熟議～ ・令和 5 年度各校・各園の学校運営方針 (案) について	12/10(火) 第 7 回 C S 委員会 ・おたま学園交流会(仮)アンケート集計結果報告 ・おおたまコミュニティ広場の内容～小グループによる熟議～ ・令和 7 年度各校・各園の学校運営方針(案)について
1 2	14 ~ 15	全国コミュニティ・スクール研究大会 in 南部 (鳥取県) ~ 3 0 日	11/7(木)~8(金)全国コミュニティ・スクール研究大会 in 金沢
1	1 1	第 8 回 C S 委員会 ・おおたまコミュニティ広場の最終確認～小グループによる熟議～ ・令和 6 年度 C S 委員会の運営について	1/14(火)第 8 回 C S 委員会 ・おおたまコミュニティ広場の最終確認～小グループによる熟議～ ・令和 7 年度 C S 委員会の運営について
		1 ~ 2 月学校関係者評価実施 ・各校園委嘱の学校関係者評価委員が行う。・各校・園毎に日時設定 ※年間の振り返り	1 月 ~ 2 月学校関係者評価実施 ・各校園委嘱の学校関係者評価委員が行う。・各校・園毎に日時設定 ※年間の振り返り
2	1 7	第 5 回おおたまコミュニティ広場 (第 1 5 回大玉村教育フォーラム) ・第 1 部 小中学生の発表 テーマ「」 ・第 2 部 フリートーク (小グループによる熟議)	2/15 (予定) 第 6 回おおたまコミュニティ広場 (第 16 回大玉村教育フォーラム) ・第 1 部 小中学生の発表 ・第 2 部 フリートーク (小グループによる熟議)
2	2 6	第 9 回 C S 委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・R5 反省 ・R6 計画 (C S 委員会の組織、運営等) ・R5 地域学校協働活動評価・検証	2/26(水)第 9 回 C S 委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針 → 承認 ・R6 反省 ・R7 計画 (C S 委員会の組織、運営等) ・R6 地域学校協働活動評価・検証、R7 計画

- 6、9、11 月実施の各校園主体の学校運営協議会は、オープンスクール (5 校時の授業参観) と一緒に行う。(授業参観-事後研究会-学校運営協議会の午後半日の予定)
- C S 委員の任期は 2 年のため、令和 7 年度に改選を行う。

### ③ 意見交換

(座長) ご意見やご要望がありましたらお願いします。来年度は、おおたま学園交流会(仮)という名称での開催を予定しています。

皆さんの反省を生かした上での計画になっていると思いますので、こちらでよろしいでしょうか。

(C S 委員) ~ 特にない様子 ~

(座長) では、このような形での令和 6 年度の基本方針・活動計画ということで予定しておりますので、皆さんもスケジュールに入れておいていただければと思います。よろしくをお願いします。それでは、「(3) 地域学校協働活動評価・検証」について事務局より説明をお願いします。

### (3) 令和 5 年度地域学校協働活動評価・検証について

#### ① 事務局より説明 (協働本部事務局 佐藤 勇人、田辺 将裕)

- 第 2 回を书面開催とし、委員の方々に事前に資料をお送りし、評価・検証いただいた。今日はそれをまとめたものをもとにご意見をお伺いする。(記述内容をだまかにまとめて示す)

ア 「地域学校協働活動事業」実施状況報告について <評価：平均 3.71 / 4>

- 学校支援ボランティア → 地域に埋もれている人材発掘。どんな方がボランティアとして登録して活動されているのかも分かるとよい。
- 家庭教育支援活動「お休みスペース」 → 回数をもっと増やしたり、幼稚園での開催も検討
- 「おおたま未来塾」 → 可能ならばギリギリまで子どもたちのサポートを。
- 「おおたまっ子学び舎塾」 → 定期的に勉強できる場に。
- 学校の先生方にもアンケートの集計結果と感想を見て頂き、互いにプラスにして欲しい。
- CS委員の役割として周囲の人に広め、興味関心をもつ人を少しずつでも増やしていきたい。
- 委員として内容を把握すること
- 実際に関わった人でないと活動の状況が見えにくい部分がある。

イ 「地域学校協働活動本部事業」アンケート集計結果について

<評価：平均 3.52 / 4>

- 「地域学校協働活動」をしっかりと理解してもらう必要がある。
- 地域の方が関わることで、児童・生徒にとって良いことではあるが、学校・先生にとって負担になることがないような関わり方も考えていく。
- 学校支援ボランティアの意見と学校側の意見を職員全員で共有する。
- 「何のために地域学校協働活動をするのか」に先生方の理解のズレがある
- 地域人材の活用を「負担」と捉える教員の意識に疑問  
→ ボランティアありきの発想で考えるその意識を転換する
- 多くの活動をするより、一つ一つの活動を充実させる。
- 準備や打ち合わせの課題、機会の場の精選、地域人材の一覧（できる事リスト）の作成
- 手続きや打合せの仕方等、もう少しシステムの構築を再考していくことも必要
- 年数を重ねる毎にデータ化システム化を進め、先生方の作業を減らしていく方法も模索する。
- 事前の準備は必要。その時間の確保、やり方を考える必要がある。
- 事前の打ち合わせはこれくらい（今ぐらい）が丁度いい。
- 協力して下さる方と担任との間で、学習活動のねらいが共有できていないことがあるようなので、このシステム作りをもう一度考える必要がある。
- 先生方は、ボランティアをお願いするに当たって手続きや日程調整、子どもたちへの関わり方に不安がある方が多い感じがする。
- 更に保護者や地域住民への認識度と理解度のアップを図り、ボランティア数の増加を目指す。
- ボランティアが今後も増えていくことは必須
- 地域人材の活用と働き方改革は別物



② 意見交換

(麻生委員) 未来塾の先生役というのはどんな方がやっているのでしょうか。

(佐藤CN) 本村は福島大学人間発達学類と協定を結んでいます。主に教員を目指す学生を対象としています。学生は教える体験を、中学生は受験準備の学習をするということで、双方にとって“win win”の関係になるよう実施しています。

(麻生委員) 福大の学生にたくさん来ていただくと、かなり充実した学習ができるのではないかと思います。人材確保についてどんな考えをもっていますか。

(佐藤CN) 毎年5月に福大で学校ボランティア説明会があり、県内の各市町村の担当者が出向いて、

(学校支援のコマの中で) 市町村の取り組み、大玉村ですと未来塾、学び舎塾、放課後子ども教室、学校ボランティア等について説明し募集しています。また、村内の学生のつながりもありますし、最近では中学3年生の時に未来塾を受けた子が大学生になって教える立場(学習サポーター)になるという流れができ、とてもいい循環になっています。お陰さまで、本年度20名の学習サポーターがおりました。

(麻生委員) 他の件で1つあるのですが、「先生に対してボランティアありきになっているのでは?」という意見があったようなのですが、ボランティアありきでいいと思うんですね。先生方だって限界があると思うので、部活も地域移行というふうを考えられてきていますし、できる人が協力していければいいんじゃないかと思えます。

(座長) ありがとうございます。私の方からなんですけど、「ボランティアの高齢化」という課題があったのですが、実際若い人となると平日仕事をされている方が多いと思います。そうでない方がどのくらいいるのかということですが、人材発掘は非常に難しい問題なのかなと…。人の情報が一番だと思いますので、自分から申し出る以外にも、紹介してもいいというように間口を広げることもいいのかなと思っています。

(齋藤校長) ボランティアの人材確保ということで、若い人の関わりが大事なのですが、それが一番薄いのが保護者なんですよ。保護者が参加する時の一番のネックは平日に仕事の休みをもらって参加するということになり、どうしても限られた人になってしまうことです。

こんなことができたらいいなと思うのですが、大玉村内であれば、商工会とかそういったところで、学校関係の行事には積極的に参加するためにボランティア休暇をとれるようにできたらいいのではないかと思います。そういった形の休暇がある企業もあればない企業もあると思うのですが、「いろんな団体が集まるイベントがある時にはボランティアに参加していい」という制度があると素晴らしいなと思います。

次年度、おおたま学園交流会(仮)が平日に分散開催されるということもありますので、村当局からそんなことができるよう積極的に働きかけていただくと有り難いです。

また、県には家庭教育応援企業という取り組みがあり、大玉村・本宮市・二本松市でも登録している企業も多くあります。行政がボランティア登録しやすい環境をつくってくれる(ex.行政が企業に声かけする等)といいなとも思っています。

(座長) ボランティア自体を企業がサポートするという時代になってきているということです。間口を広げていくといいということですね。ご意見ありがとうございます。

(吉田副会長) 現在、私もボランティアをさせていただいているのですが、そのきっかけは、友達のお母さんが幼稚園の学習発表会の衣装を縫うボランティアをしていたということでした。そんなボランティアがあるということは、実際に話を聞かないと分からないと思います。

どんな人がどんなことをやったのか、参加してこうだったとかの体験談を聞く機会があれば、「それなら私もできるかもしれない」と思うのではないのでしょうか。

また、かなり高齢の方もボランティアをされているということをお聞きしました。いろんな情報をオープンにすることによって、「私にもできるかな」と思ってもらい、ボランティアに応募する方が増えるのではないかと思います。

「こんな人がほしい」とかの具体的なことが分かると、「やってみようかな」と思うきっかけにもなるのではないかと思います。

(座長) ボランティアという部分で、人との関わり、地域のつながり等が、直接子どもたちの成長につながってくることです。早めに手立てを講じていかなければならないと思いました。

それでは、続いて「(4) 第5回おおたまコミュニティ広場アンケート結果から」に移ります。事務局より説明をお願いします。

#### (4) 第5回おおたまコミュニティ広場(第15回大玉村教育フォーラム)アンケート結果から

##### ① 事務局より説明 (CSディレクター 佐藤 勇人)

『資料に基づき説明…主なものだけ下記に列挙』

##### 【アンケートから】

①『1部』小中学生の発表について ○「とてもよい」 84%

②『2部』フリートークについて

○「とてもよい」 80%

③村のため何か始めてみたいと思う

○「とてもそう思う」 60%

【意見・感想等】 ※主なものを抜粋

○ 第1部 小中学生の発表について

- ・ 自分も良い発表ができたのですが、中学生のお話が特に良かったので、6年生になったとき参考にしたいと思います。(小学生)
- ・ 小・中学生の発表では、3校とも学びの成果をしっかりと発表していて素晴らしかったです。子どもたちの発表をより価値づけるためにも、発表後に会場の方々から感想を聞けるような時間が確保されるとありがたいと思いました。(教職員)
- ・ 子どもたちの発表は、発達段階や各学校の特色がよく出ていて大変面白かった。よく調べているし、よい活動をしていると思う。(CS委員)

○ 第2部 フリートークについて

- ・ 子どもと大人の見聞を知ることができた。大人の方の見聞を聞いて、さらにSNSについての考えや使い方について理解を深めることができよかったです。(中学生)
- ・ 子どもたちと一緒に話すことで、子どもたちの思いも知ることができ、たいへん有意義な時間となりました。開催に向けてご準備いただいたCS委員の皆様、教育委員会事務局の皆様お世話になりました。ありがとうございました。(保護者)
- ・ 第2部の話し合いが予想よりも盛り上がり、時間が足りないくらいだったので、第1部の子どもたちの発表を縮小してもよいと思った。子どもから大人までが活発に意見を交換できる機会、雰囲気はなかなかないので、毎年発表校をかえて3校ローテーションでというのはいかがか。学校の負担も減ると思う。(CS委員)
- ・ この取組の良さが全村民の共通認識になると良いと思います。(地域住民)

○ コミュニティ・スクールとして取り組んでほしいこと等

- ・ 「お金(マネーリテラシー)」についても話し合う場があると、教育フォーラムでいろいろな話し合いができそうだと思います。(教職員)
- ・ この会をもっと広く、大きくして話し合いをすることができれば良いと思いました。〈小・中交流〉(教職員)
- ・ 児童・生徒の不登校問題や精神的な問題について話し合っていたきたい。(その他)

② 質疑応答

(座長) ありがとうございました。非常に盛り上がったということですが、実際参加してみていかがだったでしょうか。

(大内委員) アンケート結果にもあがっているように、第1部、第2部ともに非常に良かったと思います。第1部の発表内容がとても面白かったですし、フリートークでは、普段子どもの意見を直接聞く機会がないので、とてもいい経験になったと思います。保護者の立場で意見交換をするということもこういう会に参加しないとできないので、有意義でした。



(後藤委員) 私のグループでは、小学生や中学生から意見を聞いて、そこから話を広げていくというふうになりました。やり方はとてもよかったですと思います。参加者でいろいろ話を出して、それが子どもに戻ってきたりして等、とてもいい流れの話し合いができました。次年度に向けてよい流れができたと思います。

(狩野委員) 子どもたちが自分の意見を進んで話していました。私がびっくりしたのは、私のグループの子たちは家庭で話ができている問題がないということでした。やはり、家庭で話ができるかどうかなんだなと思います、感心してしまいました。

(安田委員) 小学校、中学校の授業の内容を知ることができたのもよかったです。小・中学生と話す機会がなかなかないので、大変勉強になりました。

(矢吹会長) アンケートにはいろいろ書かれています。例えば、第1部は持ち回りで発表し、第2部を長くしたらどうかといった斬新な意見等もありますので、来年度開催するに当たっては、こういった意見も生かしていきたいと考えます。

(座長) それでは、「(5) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について」に移ります。事務局より説明をお願いします。

#### (5) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について

(事務局 指導主事 渡邊 博樹)

##### ① 事務局より説明

(CSディレクター 佐藤 勇人)

※ 略 < 資料に基づき説明…児童生徒の実態について >

##### ② 質疑応答

(座長) 只今説明がありましたが、皆さんから気になる点があれば出していただきたいと思います。

(佐藤史委員) この前のコミュニティ広場の時のことなのですが、同じテーブルに中学生が3名程いて、丁度その時に「ゲームはどのくらいするのか」という話になって聞いてみたんでね。夜の9時頃から10時過ぎまでゲームをしていて、そこからお風呂に入って寝るという返答だったので、そういうことも睡眠時間(の減少)に影響するんだろうなど、この結果を見て思いました。

(座長) 私のグループでも、親と「ゲームは平日3時間」というルールを決めたという話をしていた中学生がいたので、そういったこともこういう結果に出てきていると思います。これで協議を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

## 6 今年度の総括

(CS委員会会長 矢吹 吉信)

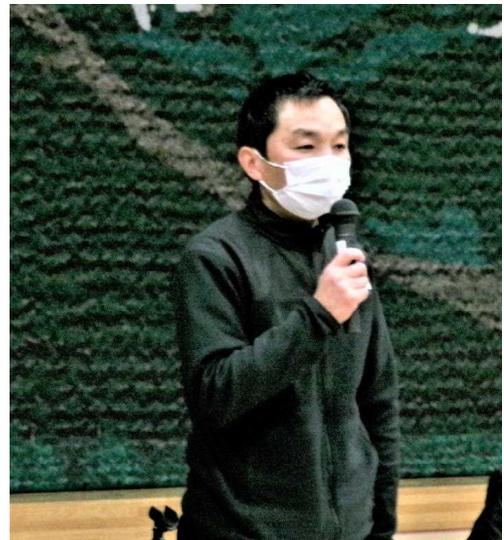
皆さん、終了予定時刻を過ぎてしまいましたが、本日も熱心なご協議をいただき、本当にありがとうございました。

1年間をふり返ってということなのですが、今年初年度の委員さんは、よく分からないままに1年が過ぎ、1年経つころにやっと「CSってこんなものなのかな」とご理解いただけたのではないかと思います。

アンケートにも書かれていましたが、毎回内容が盛りだくさんの会議で、常に時間を気にしていて、協議が十分にできない印象でした。また、振り返りをする時間もとれていない現状もあります。そこで、CS委員だけで3月にもう一回振り返りをしたいと考えております。これから日程を調整してから、ご案内させていただきます。

会長として都合のいいことばかり言っていて、なかなか振り返りができず、皆さんの本音も聞けていない部分もあります。今年度中に何とかそこを整理整頓して新年度を迎えたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

今年1年ご協力いただきまして感謝申し上げます。次年度もよろしく願いいたします。



## 7 その他

- 「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】資料」は回収する。

## 8 閉会の言葉

(CS委員会副会長 吉田 都)

長時間にわたり、本年度最後のCS委員会ありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度第9回おおたま学園CS委員会を終わりたいと思います。次年度もお世話になります。お気をつけてお帰りください。